

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
74	川崎市立有馬小学校	吾妻 典子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>【がんばる子】・・・意欲をもって学習し、ねばり強くがんばる子</p> <p>【やさしい子】・・・他の人の気持ちを考え思いやりのある言動ができる子</p> <p>【元気な子】・・・元気でたくましく、いろいろなことにチャレンジする子</p>	<p>◎自主性・主体性の伸長</p> <p>◎豊かな心の育成</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	自分自身が成長するための目標をもって学校生活を送っている	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事だけでなく係活動などの普段の生活においてもスローガンを意識して挑戦したり友達と協力して取り組む姿がみられた。 ・「つなごう有馬」を意識し地域や他学年に積極的に関わる姿や「受け止め伝え合い」を意識し相手の話を真摯に受け止め、相手が伝わるような話し方を意識する姿が見られた。 ・個々の意識のもち方に差があり、日常の学校生活において、個々への丁寧な支援が必要な場面も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返りをもとに、次年度も児童会の取組として、学校教育目標スローガンについて話し合い、学校教育目標達成のため、学校全体で取り組む。 ・各学年設定した学年ごとの取り組みを全体で共有化を図る。
2	自分の長所や課題点わかり、目標に向けて自分に合ったペースや方法でコツコツと努力している	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が個人の目標をもって学校生活を送ることができていた。定期的な学級での振り返りや学校行事の振り返りなどで自分の成長を感じ、次の目標を設定する姿がみられた。 ・キャリアノートの保護者の方からのコメントは児童への大きな励ましとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活動のねらいや目的を自分ごととしてとらえ、必要感や切実感をもって活動に取り組み、やってよかったという達成感を味わえるようにする。 ・学んだことの振り返りを大切にキャリアパスポートの記録を生かして次の目標につなげられるようにする。 ・他者からの価値づけの場の設定の場を設け、個では実感できない場面でも言葉にて伝える場で、客観的に評価できるようにする。
3	自分の体を成長させるために進んで体を動かしたりきちんとした食事で栄養をとったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心に全校で運動に親しむ活動に取り組んだ。縄跳びや体操など個人で取り組める内容にした。季節を問わず体を動かしている児童が多くいる半面、運動を億劫と感じ、屋内で過ごす児童も多い。 ・栄養教による食育指導を通して、調和のとれた食事・適切な運動・休養及び睡眠の大切さを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上をめざし、キラキラタイムや集会活動を引き続き充実させて児童が楽しんで体を動かす機会を増やす。 ・各クラス、キラキラタイムのほかにも係活動等を通して、休み時間の過ごし方についても話し合う機会を設ける。 ・家庭科の学習が始まっていない1～4年生対象に栄養教諭による食育指導を行う
4	「よくわかる有馬小」などのきまりがある意味がわかり、安全できるよう行動している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員で共通理解を図り同じスタンスで指導を重ねることが重要であるとは理解はできている。その一方で、徹底差に温度差があることがうかがえる、児童がぶれを感じずに生活できている。 ・保護者と共通理解を図ることで概ね保護者の理解・協力を得ることができているが、周知徹底までは遠い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身に対し、きまりのある意味を日ごろからの指導・徹底を図る。 ・職員会議や打ち合わせ等で職員間の共通理解を図り、指導のぶれがないようにする。今後も継続して取り組みたい。 ・保護者と学校生活について共有理解を図り、より一層のご理解ご協力を得るようにする。
5	いじめは絶対にいけないと考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に効果測定と児童の意識アンケートを実施することでいじめ等に関する事案の早期発見に努めた。児童の振り返りアンケートで最も肯定的回答の割合が高く、「いじめは絶対にいけない」の意識が向上しているが、否定的な回答も一部ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育、全校でのいじめ標語への取組の他、児童の変化に注意を払い、職員間で情報交換をし、いじめの予防的対応と早期発見、早期対応に努める。 ・いじめ防止月間等を活用して、集会を開くなど、有馬小としてのいじめに対する意識を高める場を計画する。
6	必要ときに相談できる人がいて、安心して楽しく学校で生活できている	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談窓口として支援教育COや巡回カウンセラーが周知され、相談件数が増加した。継続的に相談されるケースも増えてきている。また、保護者だけでなく児童からの相談も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に情報交換をし、共生・共育プログラム等やSOSの出し方などの授業を行いながら、相談のスキルを指導する。 ・子どもの情報共有しながら、保護者との連携をとることでよりよい体制を整える。
7	異学年との交流を通して、上級生として下級生の手本になろうとよりよい行動をしたり、あこがれの上級生になるために目標をもったりしている	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生がリーダーとして活躍し自己有用感を高めるとともに、その活躍する姿をみて学んだ5年生が高学年としての自覚をもつようになった。異学年交流を通して下級生が上級生に憧れをもっている様子が見られた。 ・高学年だけでなく、低・中学年のおいでも、下の学年を授業の発表に招待することで、そこに至るまでの計画の過程でからも上級生としての意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、高学年児童だけでなく、中学年児童も自主的・積極的に取り組めるよう活動内容の工夫をする。クリーン作戦にくりの子班で取り組んだり、作品鑑賞の感想交流をペア学年で行うなど交流の機会を多く設ける。
8	友達の意見を聴いたり自分の意見を伝えたりして考えを広げている	<ul style="list-style-type: none"> 「受け止め・伝え合い」のスローガンのもと、授業等でも相手を意識した話し方・聞き方の姿勢は、4月よりもだいぶ出来上がってきている。 一方で、話すのが苦手だと感じている子どもも多く、自分の考えや意見を話すスキル(話型・語彙等)を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童、児童同士の関わり合い、各教科等の特質に応じた体験活動を通じて児童が多様な他者と協働することの重要性を実感しながら学ぶよう、家庭や地域と連携して取り組む。 ・基本となる学級経営を充実させ、お互いが伝え合える雰囲気づくりを第一としたい。
9	お子さんは、必要な時にGIGA端末の使って学習することができている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的、継続的な指導、長期休業前などでの保護者への周知と協力のお願いで大きなトラブルの未然防止はできた。しかし、GIGA端末を学習以外の目的で使用する事案もあった。 ・GIGA端末使用にも慣れ、きまりの徹底が不十分な面も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も情報モラル教育に計画的に取り組む。保護者と協力し、GIGA端末を持ち帰りの際、児童が学習の目的に沿った使い方ができるようにする。
10	自分からあいさつしている	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっとよい有馬をつくりだそう」と、中学年児童が自主的なあいさつ運動を行った。あいさつを返すことはできるが自分から進んでできている子は少ない。 ・通学路で登校見守りの地域の方や旗振りの保護者へのあいさつがまだできていない児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自主的にあいさつ運動に取り組むようにし、相手より先にあいさつができる子を増やす。 ・校外でもできるようPTAや地域と連携し、地域で登下校時などあいさつする機会を増やす。
11	有馬小や有馬の地域について学び、興味をもったことに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験することで苦労や喜びを味わったり新たな発見をしたり、地域への愛着を高め、進んで関わろうとする姿がみられるようになった。 ・地域の商店などに学習が終わった後でも訪ねたり、商品を買ったりして、身近な地域の人としての親近感を感じること、学んだことを地域に向けて発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域材を生かし年間を見通した学習計画の立案と新しい地域材の開発。 ・川崎市制100周年をきっかけに、学校や地域の人、もの、こととのつながりを意識した学習に取り組む、学校や地域を愛する心を育むとともに地域に発信し、つながっていくものと考えられる。
12	地域の人や家の人が見守ってくれているので、安心して登下校できている	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの旗振り活動や地域の交通安全ボランティアの方々、学校運営協議会の見守り活動は継続して行われている。保護者の毎日の旗振り活動が成立されずの見直しを必要とする。各自治会の方々、民生・児童委員の方々、元PTA役員など地域の方々も見守りに協力してくださった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの旗振り当番の見直しを図り、誰もが見守りとしての役割が構築していけるように、子供たちの実情に合わせた時期等を検討していく。 ・地域の方が登校時見守りをしてくださることで、児童の安全な登下校につながった。学校運営協議会からの地域への協力依頼で、町会等地域に見守りの輪が広がっている。今後も協力をお願いしていく。
13	お家の人と、学校の出来事や予定について話している	<ul style="list-style-type: none"> ・学習公開や教育相談の案内等の連絡手段としての紙での配付を極力減らし、メール配信やホームページへの掲載とすることで、保護者の方がいつでもどこでも確認できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の状況が手軽にわかるようなツールで行事や子どもたちの様子など継続して周知していく。
14	有馬小は校舎内外の営繕・清掃、緑化など教育環境整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽の整備や校舎の修繕を計画的にすすめ、安全で整理整頓された教育環境づくりに取り組んだ。 ・工事にかかわる事故防止のために、危険性の周知の徹底を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務職員と設備面で修繕の必要な箇所は、順次優先順位の高い箇所から対応する。校舎再生整備工事残り1か年間で整備を進める。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいる。また、自分の考えをもち、堂々と発表している姿がとても良い姿だと思う。異学年交流を大事にし、活動の場を広がっているのがとても良い。また、地域を巻き込んだ学習が多くみられて、子ども達もよく声をかけてくれるようになった。端末を使っている学習も取り入れられているが、それに依存しすぎないか、子ども達のモラル的なところが大丈夫なのか不安な面は感じる。また、子ども達の言葉使いが少し気になる。保護者の方々に周知して家庭でも取り組んで行く必要があるのでは。さらに、いじめはいけないこととする捉えが来年度はさらに数値が向上することを期待している。	運動会や学習公開、懇談会など様々な機会を通して、それぞれの場面での児童のがんばる様子を見ていただけのではないかと思います。また、地域の方との交流も増えました。有馬のまちに飛び出し、地域の人と深くかかわり、その思いに触れ、学校の中だけでは得られない本物の経験、また、体験を通してキャリア教育の充実。地域の方々にご協力いただきながら、もっとすきな有馬にしたいという思いが、「公園のごみ拾い活動」や「有馬についての学習」につながりました。また、学校運営協議会の方々や今年度した「寺子屋ありま」ボランティアの方々をはじめとする皆様に教職員とともに子供達をアシストしていただいたと実感できる1年でした。自分の学びを基本とし、地域素材を生かし、地域とのつながりを大切にしながら、自分たちの周りの全ての人、もの、こととの出会いに感謝の心をもちふるさとを誇りに思い愛する子を育てていきたいと思っています。